

【 令和元年度 学校評価及び学校関係者評価 】

確かな学力と豊かな心を育み、社会を生き抜くためのたくましさを持った生徒の育成

|      |                                     |  |   |  |  |
|------|-------------------------------------|--|---|--|--|
| 記述評価 |                                     | 学校の自己評価の通り、概ね目標に近づいている。課題の克服に継続して取り組んでいただきたい。  |   |  |  |
| 中期目標 | 確かな学力の向上<br>(自己の目標に向かって伸びやかに成長する学校) | 健康で心豊かな人間性の育成<br>(明るい挨拶と生徒がいきいきと活動できる安全・安心な学校) | 社会を生き抜く力の育成<br>(将来の支えとなる社会を生き抜く力・土台を育む学校) | 家庭・地域との連携<br>(家庭・地域の期待に応え、家庭・地域に信頼される学校) |  |
| 評価   | ◎ 表現力を向上を！                          | ◎ 挨拶を本物に！                                      | ◎ 体験活動の充実、本物に触れる！                         | ◎ 地域のイベントに参画！                            |  |

【評価】 3段階 ( A:十分に達成 B:おおむね達成 C:改善が必要 ) 【判定規準】 A:肯定的90%以上 B:肯定的80%以上 C:79%以下 (アンケート結果A+Bの%)

| 中期目標                    | 重点目標<br>(評価内容)         | 評価指標  | 判定基準<br>●生徒 ○保護者 ◎教師 ★結果                                 | 結果                      | 自己評価 |  | 学校関係者評価  |  |   |
|-------------------------|------------------------|---|--|-------------------------|------|--|--|--|---|
|                         |                        |   |  |                         | 評価   | 成果と課題  | 今後の方向性(改善計画)   | 評価   |   |
| 確かな学力の向上                | ①学びが楽しい学校づくり(楽習)       | ・体験学習(本物に触れる)や学び合いを充実させ、周りの人と共に考え、自分の考えを主体的に発信する。   | (生徒アンケート)<br>●①学校で学ぶことは楽しい。                              | 88.9%                   | A    | ○生徒アンケートの結果、「学びが楽しい」と回答する生徒が多い。「学び合い」を取り入れた授業スタイルが定着してきており、主体的・対話的な深い学びを作り出せている。○「授業内容が分かりやすい」の項目については、生徒・保護者とも高い評価である。「分かる・できる」実感ができるように基礎基本の重視、「学び合い」を基本とした思考力を鍛える授業で、生徒たち自身が、達成感を感じる機会を多く作れている結果だと思われる。○「振り返りの充実」を研究テーマに、授業改善に取り組んでいる。前期目標のA評価60%は達成できた。(前期A評価63%, B評価もあわせると95%)○「振り返り」の質も向上してきており、生徒にも次の授業に生かそうとする意欲が出てきている。○国学力学習状況調査、県基礎学力調査ともに、県平均を上回ることができている。(10%以上3教科、5%程度2教科)○学習規律も、定着してきており落ち着いて授業に臨む生徒が増えている。 | ・「振り返り」について、校内研修、教科部会を通して共通理解を図り、更に質の向上を目指していく。<br>・授業規律については、良くなってきたが「私語」の部分でもう少し、共通認識を持って組織的に取り組む必要がある。<br>・家庭学習時間が充実するよう、各学年・教科で家庭学習課題について検討していく。 | ○自ら進んでの意欲が弱いのではないか。<br><br>○生徒アンケートの2, 3年生の家庭学習の時間が少ない。<br>・テスト期間中は家庭学習の時間は多いと感じている。今後は、テスト期間以外の普段の学習時間、学習習慣の定着に一層取り組んでもらいたい。<br><br>○点数は良く、学力は高いが「表現力」などプレゼン能力が今後の生徒には求められる。インプットは良いが、アウトプットの部分を伸ばしてほしい。3分間スピーチなど一つの方法である。<br>→「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、グループでの学び合い・振り返りに力を入れ、思考・判断・表現力などを向上させていきたい。 |   |
|                         |                        |   | ●④友達と教え会ったり、話し合ったりすることができた。                              | 94.8%                   |      |  |  |  |   |
|                         | ②-1:基礎学力の確実な習得を図る      | ・補充学習、各種コンテスト、検定に取り組む。                              | (教員アンケート)<br>◎③読み・書き・計算・単語など基礎基本が身に付く指導を行っている。           | 100.0%                  |      |  |  |  | A |
|                         | ②-2:家庭学習の習慣化           | ・宿題チェックを徹底し、家庭学習の習慣化を図る。                            | (家庭学習時間調査結果)<br>★⑩学年目標以上達成している。(1年70分、2年80分、3年90分以上)     | 1年60%<br>2年20%<br>3年28% |      |  |  |  | B |
|                         | ③分かる授業と授業内容の定着を図る      | ・生徒が「授業内容が分かった、できるようになった」と感じ、国、県学力調査で国、県の平均を上回っている。 | ●②授業内容は分かりやすい。   | 95.2%                   |      |  |  |  | A |
|                         |                        |   | (保護者アンケート)<br>○②学校は、授業を工夫してわかる授業づくりに努めている。               | 93.8%                   |      |  |  |  |   |
|                         | ④振り返りから授業改善へ(教師の授業力向上) | ・次の学びや生活に生かす振り返りから授業改善を進める。                         | ●⑥振り返りから学んだことや新たな気づきの再確認が出来ている。                          | 92.4%                   |      |  |  |  | B |
|                         |                        |   | (授業自己分析結果)<br>★授業自己分析結果を向上させる。全平均A:2.3以上 B:2.0以上 C:1.9以下 |                         |      |  |  |  |   |
|                         | ⑤学習規律の徹底し、落ち着いた学習環境    | ・授業規律(ベル着、聴き方等)を徹底し、落ち着いて学習に取り組んでいる。                | ●⑦チャイム着席をしっかりと守ることができている                                 | 98.2%                   |      |  |  |  | A |
|                         |                        |   | ●⑨私語をせず、授業に集中して取り組んでいる。                                  | 87.0%                   |      |  |  |  |   |
| ○④生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいる。 |                        |   | 93.3%  |                         |      |  |  |  |   |
| 健康で心豊かな                 | ①場に応じた礼法を身につける         | ・挨拶や返事など場に応じた礼法を身につけ行動する。                           | ●⑩誰にでも、自ら進んで大きな声で挨拶をしている。                                | 75.5%                   | B    | ・今後も前項での挨拶運動を継続するとともに、授業や部活動等学校生活において返事をする場面では、しっかりと相手に聞こえる声で返事をさせていく。<br><br>・2学期はたくさんの行事があるので、各活動を通して協力することや感謝する心を育てていく。   |  |  |   |
|                         |                        |   | ○⑦生徒はしっかりと挨拶や返事ができている。                                   | 85.3%                   |      |  |  |  |   |
|                         | ②規範意識の向上と道徳実践力の育成      | ・社会的なルールや規範意識を高める。                                  | ●⑫人が困っているときは、進んで助けたり、協力したりできている。                         | 93.8%                   | A    |  |  |  |   |
|                         |                        |   | ○⑥学校は、豊かな心(思いやり、感謝等)を育む活動を行っている。                         | 87.2%                   |      |  |  |  |   |
|                         |                        |   | ○⑧学校はきまりを守るなど、基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。                     | 92.5%                   |      |  |  |  |   |

|                     |                           |   |   |                                |               |  |  |               |   |
|---------------------|---------------------------|---|---|--------------------------------|---------------|--|--|---------------|---|
| かな<br>人間性<br>の育成    | ③責任感・協調性の育成               | ・互いに認め合い、仲間と協働してものごとを創り出す。  | ●⑦自分の係の仕事を担当をもって行う。<br>●⑩自問清掃にしっかり取り組んでいる。  | 95.5%<br>94.3%                 | A             | ○係や委員会活動・自問清掃については、自分の役割を自覚し、責任を持って取り組んでいる。  | ・不登校生徒の家庭との連絡を今後も密に取っていく。別室登校の生徒には、学習保証はもちろん、本人の困っていることを確認し、手立てを考えながら少しずつ学級にはいれるように支援していく。   | A             | ○夏休み明けに不登校が増えるというニュースを聞いている。本校の状況はどうか。<br>→職員全体で、根気強く取り組む。  |
|                     | ④いじめ、不登校への未然防止            | ・いじめ、不登校の未然防止に取り組む、特別な対応が必要な時は、組織的に対応している。  | ●⑬友達の悪口を言ったり、嫌な思いをさせることはしなかった。<br>○⑨学校は生徒の悩みや問題に適切に指導対応している。  | 95.5%<br>87.2%                 | B             | ○1学期に2回のいじめアンケートを実施し、各1件ずつの訴えがあったが、迅速な対応でその後は起こっていない。△昨年度からの不登校生徒がまだ登校できずにいる。また、別室登校の生徒も減らない。  |  | B             |   |
|                     | ⑤健康体力向上及び自己管理能力の育成        | ・心身ともにねばり強くたくましさを育成する。  | ●⑭自分の健康を守るために、歯磨き、手洗い等をきちんと行う。<br>●⑯部活は休まず一生懸命頑張っている。   | 97.1%<br>94.9%                 | A             | ○自分の健康については意識しているので、手洗いや歯磨きはしっかりと出来ている。また、体力向上のために部活動にも休まず取り組んでいる生徒が多い。  |  | A             |   |
| 社会を<br>生き抜く<br>力の育成 | ①本物に触れる機会を増やし、生徒の視野を広げる   | ・各学年に、体験活動を設ける。<br>1年 車椅子・アイマスク体験 11月<br>2年 わくワーク体験 7月<br>3年 ものづくり講座 7月             | ★実施回数<br>・A:各学年2回以上実施<br>・B:各学年1回以上実施<br>・C:実施せず<br>○2年:仕事に対する見方は変わったか。<br>A:大きく変わった6 B:変わった26<br>C:どちらともいえず16 D:あまり変わらない1<br>★事業所:生徒に良い変化が見られたか。 | 保護者<br>65.0%<br>事業者<br>A:94.0% | 年間<br>で<br>評価 | (1年)○のとてまり栽培の体験がふるさと教育につながっている。<br>(2年)○職業を実際に体験したことで、それまでのイメージとは違う部分も知り、より深く「職業」に関する認識を改める機会となった。<br>△受け入れていただける事業所の選択肢をさらに広げたい。<br>(3年)○和菓子作り体験から、職人の技にふれることができた。  | (1年)のとてまり(5月) 職業人講話(2月)<br>(2年)修学旅行で大相撲観戦(9月)<br>(3年)幼児とのふれあい体験(10月)<br>ブドウ収穫・ワインラベル作り<br>中学生議会(10月)予定   | 年間<br>で<br>評価 |   |
|                     | ②生徒のコミュニケーション力の育成         | ・学級活動、行事、体験活動、その他地域の行事等を通して、協力の大切さに気づかせ、人との関わり・コミュニケーション力を育成する。                     | ●⑫進んで助けたり、協力したりできた。<br>●友達の悪口を言ったり、いやな思いをさせない。  | 93.7%<br>95.5%                 | A             | ○生徒会役員や代議員の生徒も自分の考えや意見を言うことに対して消極的な生徒が多かったが、地域清掃の運営や緑の募金活動の実施などを通して、自分たちで意欲的に考え、その意見を積極的に伝えることができるようになってきた。  | ・学級での「振り返り」を充実させていく。<br>・体育祭、文化祭では「振り返り」に力を入れ、自分事として行事の関わりを意識化していきたい。  | A             |   |
|                     | ③生徒会の自主的活動の充実             | ・体育祭、文化祭、穴中タイム、地域清掃、募金活動などの企画運営などを通して実践意欲・実践力が向上している。                               | ★振り返り(変容を分析する)<br>・事後アンケート(自主性・達成感項目)<br>・振り返り感想文   |                                | 年間<br>で<br>評価 | △全校生徒の自主的活動はまだ限定的なので、体育祭の競技や委員会の仕事の運営、文化祭の演劇・展示の準備などを通して、全校生徒のさらなる自主性を育成していきたい。  | ・後期も赤い羽根共同募金や資源ごみの回収などを通じて、地域に貢献し、ボランティア精神や生徒の自己肯定感を高めていきたい。   | 年間<br>で<br>評価 |   |
|                     | ④キャリア教育の充実                | ・各種体験学習により望ましい勤労観・進路観を育み、生き方指導を行う。<br>1年 職業人講話 2月<br>2年 わくワーク体験7月<br>3年 高校体験入学7, 8月 | ○⑩進路(生き方)に関する指導・相談が行われている。<br>★振り返り(変容を分析する)<br>・事後アンケート<br>・振り返り感想文  | 88.0%                          | 年間<br>で<br>評価 | (2年)○勤労に関する意識は体験前後で変わった感じは見られる。特に普般的な「あいさつ」の重要性に気が付いた生徒が多かった。  | (1年)職業人講話(2月)・職業調べ<br>(2年)修学旅行で大相撲観戦(9月)・高校調べ<br>(3年)幼児とのふれあい体験・先輩から学ぶ会(卒業生、大学生)   | 年間<br>で<br>評価 |   |
| 家庭<br>地域<br>連携      | ①家庭、地域との連携協力体制の確立         | ・学校は積極的に情報発信を行い、保護者は学校の教育方針を理解し、連携協力関係が作られている。また、学校は、保護者が学校へ足を運ぶ機会をつくっている。          | ○①学校は教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝えている。  | 96.2%                          | A             | ○育友会総会や学校だより、ホームページ等で、機会あるごとに学校のめざす生徒像、授業像、学校像、教師像が明確に伝わるようにした。<br>△保護者アンケートで、E:わからないと答える保護者がいるので、学校の様子を十分伝える工夫が必要である。<br>○4月の総会、及び5月の委員会の参加率は高い。<br>○育友会行事「奉仕作業」には大勢協力して頂いている。<br>△4月の授業参観の保護者の参観人数は高いが、学校公開日の参加人数が少ないことが課題である。 | ・学校だよりの充実。ホームページでの生徒の活動の様子を写真も掲載し伝わるようにする。<br>・生徒の姿を見に来て頂くよう呼びかけを行う。   | A             | ○連携は、十分図られていると思う。<br>→より積極的に生徒が町のイベントに参加する。<br>できれば、スタッフとして運営に参加させてもらいたい。<br>→昨年度に続き、カフェローエルに参加予定。<br>→生徒の成長に良いことである。 |
|                     |                           |   | ○⑭学校と保護者・地域との協力連携が効果的に行われている。   | 87.0%                          |               |  |  |               |   |
| 働き<br>方<br>改革       | ①業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める | ・効率的に業務を遂行している。<br>・ワークライフバランスにつとめている   | (定時退校日は毎月1回)<br>(部活動休養日は平日1日・休日1日)<br>○⑮業務の効率化を進めている<br>○⑰ワークライフバランスにつとめる。  | 30.0%<br>45.0%                 | C             | ○ICTを活用し、時系列でのデータ保存などの効率化の工夫は見られる。<br>△月1回の定時退校日の設定をしているが、過半数以上の職員が残っている。<br>△残業が80時間を越える職員が、4月6人、5月12人、6月13人である。職員の月平均時間は、4月75時間、5月86時間、6月93時間、3か月平均85時間。最終8時の退庁呼びかけをしていく。  | ・計画性を持って段取り、事前準備をする。ICT活用。<br>・仕事に優先順位をつける。・チームで分掌を実行する。<br>・朝の時間を活用する。会議のスリム化。等<br>・ワークライフバランスの勧めで自己研鑽の機会を呼びかける。・リフレッシュウイークの設定。部活動の複数顧問制で負担の軽減。 | C             |   |
|                     |                           |   | (勤務時間調査)<br>★時間外勤務を月80時間以内とする。<br>A70h以内 B80h以内 C90h以内  | 85時間                           |               |  |  |               |   |